探訪

経営者
INTERVIEW

信頼できる確かな生産技術で、お客様のニーズにお応えします

オギハラ工業株式会社

農業用および産業用機械器具を製造するオギハラ工業株式会社。設計から組み立てまで自社での一貫生産体制を構築しており、その品質とスピード感は顧客から高い評価を受けています。

今回は、2024年4月に社長に就任した、荻原拓実社長から創業100年の歴史や現在の取り組み、そして今後の展望等についてお話をうかがいました。

【会社概要】

会社名	オギハラ工業株式会社
代表者	代表取締役　荻原　拓実
所在地	上越市新保古新田639番地
創業	1924年3月
社員数	70人(2023年12月現在)
事業内容	金属加工製品の製造･販売

貴社の沿革をお聞かせください

当社は、1924年３月に「荻原自転車店」として創業しました。ちょうどこの頃は、輸入品で高価だった自転車が、国内で安価に生産できるようになり、急速に当時の人々の暮らしに浸透してきた時期でした。そこで、初代社長である荻原正平は、春から秋にかけて自転車を組み立てて販売するとともに、雪が降る冬の期間は自転車を預かって修理や掃除をしていたそうです。

オギハラ工業（上越市新保古新田）

また、大正末期から戦後復興期にかけては、自転車とともに、その後ろに取り付けるリヤカーも荷物の運搬手段として広く普及してきました。そのため、当社にもリヤカーの修理依頼が舞い込んでくるようになりました。しかし、リヤカーは鉄製ですので、加工するには溶接技術を要します。そこで、1950年に溶接部門を併設し、リヤカーの修理・製造なども行うようになったそうです。この事業が順調に推移し、1953年「株式会社　荻原商会」を設立し、会社としてのスタートを切りました。

そして、会社の成長に大きく貢献したのが、自社で考案した「手押一輪車」です。今でこそ、手押一輪車は、農作業や工事現場等で当たり前に見る光景ですが、当時はこうした形状の台車はまだなかったようです。細道でも楽々とモノを運べると評判を呼び、高度成長期の建設ラッシュを背景に、首都圏の建設現場に向けてどんどんと出荷されていきました。

その後、1973年には、油圧500トンの大型プレス機を導入し、新たにプレス部門と機械部門を開設したことで、本格的に金属加工製造へと軸足を移します。時代の要請に応じて、製造するものは変化しており、現在は主に農業用および産業用機械器具などの相手先ブランドによる生産（OEM）を手掛けています。

現在は、主にどのような製品を製造していますか

農業用機械では、高所作業車や自走薪割機、自走草刈機などです。産業用機械においては、物流倉庫や配送センター内で使用されるコンベヤ式の搬送・自動仕分機器や自動化設備などを製造しています。

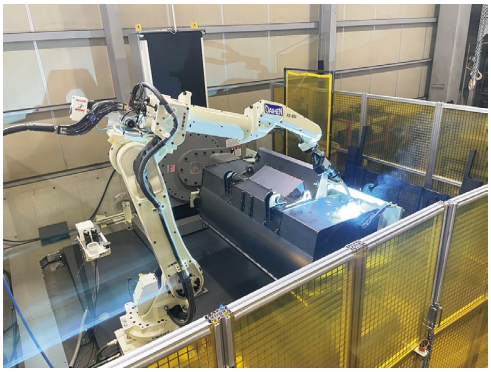
同社が製造している高所作業車

当社の強みは、設計から板金、溶接や塗装、組み立てまで一貫した生産体制をとっていることです。また、生産ラインの自動化に向けた様々な設備を完備しているので、少数精鋭でスピード感をもってお客様の要求に応じた製品を製造することができます。また、単に受注生産するだけではなく、より製品の付加価値を高められるように、設計段階から当社の技術者が加わり、共同で開発に携わっています。

様々なオリジナル商品も製造されています

これまで培ってきた技術力を生かして、自社でも様々な製品を開発しています。

その代表的なものが、除雪用のスノーダンプ「スノーブル」です。考案したのは1971年ですが、現在でも毎年数万台を製造する当社の看板商品であり、50年以上経つ今でも形状は当時とほぼ変わっ



生産ラインの自動化に取り組み、少数精鋭でスピード感をもって製品を製造している

ていません。日本海側特有の重く湿った雪を運びやすくするために底を平たくし、取っ手の角度やパイプの大きさなどは女性や高齢者でも使いやすいように細部まで計算されています。

大きな鉄板１枚からつくるので、年が明けるとすぐに来年度の生産準備に入り、夏以降に本格的に出荷していきます。

また、実際に農家の方からの要望を受けて開発した製品もあります。高速ブラシで水稲用苗箱と野菜用育苗トレーの両方を１台で洗える洗浄機や、不整地や外幅が狭い畦道などでも走行できる運搬機もその一例です。大手メーカーが製造しないようなニッチな（隙間）市場で独自性を発揮して、ブランドを確立してきました。

農業の労力を軽減する製品も開発しているそうですね

様々ありますが、そのひとつが当社と埼玉県の機械メーカーで共同開発した傾斜地専用親子式草刈機「ベローン」です。

2022年から23年の２年間、佐渡の棚田で行われた国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機関（農研機構）の委託事業「スマート農業産地形成実証」で使用されました。佐渡は棚田の多い地域です。一方、棚田は形状が複雑で、大型の機械を導入することが難しい場所が多々あります。しかも、農業に従事する人は高齢化しており、草刈りひとつとっても身体的負担はかなり大きいです。今回の実証実験は、その棚田での労力軽減に向けた機械の「シェアリングサービス」の可能性でした。そこで使用されたのが、同機械です。刈刃がついた子機が斜面を上下することで草を刈ります。子機は親機とワイヤーでつながっているので、作業する人は斜面の上の親機のレバーを操作するだけです。本実証において同機械は、作業時間の削減や負担軽減効果を発揮することが実証されましたし、シェアリングサービスの有用性も確認されました。

高齢化が進む農業は課題が多いですが、だからこそ省人化や自動化に向けた農業機械の開発には潜在的な可能性があると思っています。

親子式草刈機「ベローン」:名前は「Bevel（斜面）」と「Long（長い）」を合わせた造語。子機の動きがかわいらしく、2022年度にグッドデザイン賞を受賞

上越地域特有のモノづくりにも挑戦しているとお聞きしました

上越市は世界的なチタン素材の生産地でもあります。チタンは軽くて丈夫で、変形しにくく、耐久性を持っている素材です。また、表面処理を施すと色鮮やかに発色します。しかし一方で、強度が高いため切削加工がとても難しいことが問題でした。そこで、当社を含めて上越地域33社の技術者が集まり「チタンのまち上越」を発足し、この素材を生かした新しいモノづくりを研究してきました。

様々なチタン製品に取り組む中で、誕生したのがチタン製の名刺です。難しいとされたレーザー加工を施すことに成功し、意匠登録もしました。今後は贈答品として販売することも検討しています。

また、2019年に世界で数社しかないスキー用のエッジを手掛ける「打江製作所」（上越市）の事業を引き継ぎ、100％子会社の「エッジシステムズ」を設立しました。同社では毎年約８万枚分のエッジを製造し、国内スキーメーカーに提供しています。各メーカーの板の形状に合わせてステンレスなどの金属素材をプレス機で加工していきますが、加工にはコンマ数ミリ単位での調整が必要で、熟練した職

色鮮やかなチタン製の名刺

人技が求められます。これからは、その技術力を生かしてグループの総合力を高めていくとともに、海外からのインバウンドを視野に入れ、地元の木材を使ってスキー板をつくるワークショップを開設するなど、上越ならではの地域資源を生かした取り組みも考えています。

社長就任と創業100年に向けた想いをお聞かせください

私は2024年４月に５代目社長として就任しました。創業から100年間、当社は金属加工分野において、様々な製品をつくり出すことで、社会に貢献してきました。先人から引き継いだ技術力と伝統を守りつつ、これからも必要とされる企業として、お客様のニーズに応える最高のモノづくりをしていかなければいけないと、深く心に刻んでいます。

当社の社是は、「なお高く　－More High－」です。また、当社の経営理念には、「創造力、イマジネーション、地道な技術、実行力が我が社のあらゆる仕事における重要な要素です。現在の仕事に満足する事なく常に我が社の存在意義を念頭に置き、お客様の期待に応えうる努力を怠ってはなりません」と唱っています。

これまでを振り返ってみても、当社は板金から組み立てまで一貫生産が確立していること、高い技術力を有していること、大企業ではできないようなスピード感で製品をつくれることなどで、お客様の信頼を獲得してきました。しかし一方で、近年は技術の発展によりお客様の依頼もレベルの高い要求が増えていることも事実です。そうした中で、私が一番危惧していることは、挑戦を諦めて成長を止めてしまうことです。「できない」と始めから挑戦せずに仕事を断ってしまえば、オギハラはここまでしか作れないと思われてしまう。お客様からどんな製品も「オギハラなら任せられる」と思ってご相談いただけるよう、常に挑戦する姿勢を持ち、成長を続ける企業でありたいと思っております。そのための社員教育も、技術の勉強会も積極的に行っていく所存です。現状に満足することなく、常に改善・改良を続け、お客様の期待の一歩先を行く製品をつくり続け、当社を支えてくれる社員と共に新たなオギハラ工業の100年を目指していきたいと思っています。

（2024年12月11日取材　柴山、神保）

100周年その先へ MORE HIGH! 100th

創業100周年の記念式典で撮影した集合写真とロゴ。
新社長のもと、次の100年に向けて挑戦を続けていく